

Q3

「平成の大合併」は、今までの合併とどこがちがうの？

全国のほとんどの市町村は、これまでに「明治の大合併」と「昭和の大合併」の2度の大きな合併を経て、現在に至っています。

その合併の背景をみると、社会情勢が著しく変化した時期と重なっています。

「明治の大合併」…………… 明治中期、近代的な地方制度を導入するため。

「昭和の大合併」…………… 戦後の高度経済成長による社会変化に対応するため。

右肩上がりの明るい将来を見据えながら、国・県主導のもとで進められました。

「昭和の大合併」から40年余。今の社会はどうでしょうか？

- 国や地方自治体の厳しい財政状況
- 地方分権の推進による市町村の役割や責任の増大
- 価値観の変化による住民ニーズの高度化・多様化

そして、

少子・高齢化による人口減少社会の到来

総務省の統計によると、平成16年4月1日現在の子どもの数（15歳未満人口）は、前年より20万人も少ない1781万人で、23年連続の減少となっています。

また、総人口に占める子どもの割合は13.9%で過去最低となっており、30年連続で低下しています。

高齢化率は、25年後には30%台に突入し、1人のお年寄りを2人で支える時代がやってきます。

すでに、高齢化の進展により高齢者福祉サービスの充実は、住民の大きなニーズの一つとなっています。

厳しい財政状況の中、今後も施設の整備や福祉に携わる人材の育成など、さらにサービスの充実を図る必要があります。



これから市町村は、自らの責任と判断で、
地域の実情に合った行政サービスを提供していく責任があります。

「平成の大合併」は、21世紀という厳しい時代への生き残りをかけて、
市町村が自らの判断で行う自主的な合併です。

私たちの先輩は、社会情勢の変化のたびに幾多の試練を乗り越えて、
子どもや孫たちのために「合併」という英断を下しました。

今、時代の大きな変革期を迎え、

今度は、私たちが未来を担う子どもたちのために
佐久市・臼田町・浅科村・望月町の合併を成し遂げなければなりません。